

**01 令和7年度県費留学生によるコラム**

- 福川 グスタボ さん(ブラジル出身)
- 児玉 ブルノ 啓吾 さん(ブラジル出身)
- 川畑 ポンセ ケビン ミゲル さん(ペルー出身)

02 知事の動き

- 韓国の李赫(りひょく)駐日大韓民国大使が訪問されました(12月10日)
- 駐日アイルランド大使館のデミアン・コール大使が訪問されました(12月11日)

03 かごしまの観光情報

- 「墓目の儀(ひきめのぎ)」・「百々手(ももて)式」(12月7日)
- 甑島のトシドン(12月31日)
- 卍 Coming UP !【令和8年2月、3月のイベント情報】

01 令和7年度県費留学生によるコラム

令和7年度の県費留学生3名に鹿児島での生活を振り返り、コラムを書いていただきました。

○福川 グスタボ さん(ブラジル出身)

初めまして、福川グスタボと申します。2025年度鹿児島県県費留学生です。

現在、鹿児島県で留学しており、2025年4月から鹿児島大学にて研究をさせていただいております。ブラジル出身ですが、母方の曾祖父は鹿児島県の出身です。戦前に南さつま市加世田小湊を出て、ブラジルのグアララ地区へ移住しました。

私が生まれる前に祖父が亡くなっていたため、鹿児島県に来る以前は、鹿児島の文化や歴史についてほとんど知りませんでした。一方で、父方の祖父母とは多くの時間を共に過ごしており、父方のルーツについては詳しく話を聞くことができていました。そのため、心のどこかで、母方のルーツとの縁が失われてしまったように感じていました。

そのような中、2024年にケイゴという友人（同じくブラジルから来た2025年度鹿児島県県費留学生）に鹿児島県人会を紹介してもらい、メンバーとして参加するようになりました。そのご縁から、県人会にいらっしゃる元県費留学生のアレシャンドレさんに、県費留学プログラムへの参加を勧めていただきました。

鹿児島県に来てからは、鹿児島の文化や歴史について多くのことを学びました。また、母方である福島家の戸籍謄本を取得し、先祖が暮らしていた地域を実際に訪れることもできました。その結果、ようやく家族と日本を結ぶご縁を取り戻すことができたように感じています。

ルーツを探究する一方で、鹿児島大学でも学業に励み、経営学を専門とする自分の分野について、より深く学ぶことができました。法文学部でさまざまな授業を履修し、ご指導くださった先生方とともに研究を進める中で、経営学について一層理解を深めることができたと感じています。研究テーマとしては、日本企業とブラジルにある日系団体との交流を選びました。このテーマを通じて日伯関係がさらに深まることを願い、さまざまな資料や記事を用いて調査を行いました。日本とブラジルのつながりは非常に深い歴史を持っており、想像以上に多くの情報やデータを見つけることができました。



鹿児島大学での記念撮影



鹿児島大学の入学式

また、鹿児島の伝統や歴史を体験できる機会にも数多く恵まれました。中でも最も印象に残っているのは、おぎおんさあ祭りで三番神輿に参加できたことです。正人さんという三番神輿のメンバーの方にお誘いいただき、本祭だけでなく、おぎおんさあの三日間すべてに参加させていただきました。神輿を見学するだけでなく、皆様と一緒に担ぐことで、祭りに込められた文化や精神をより深く感じることができました。日本文化を大切にする心や、祭りの持つ意味について、あの日を通して少し理解できたように思います。



おぎおんさあ祭りの衣装

さらに、鹿児島での生活を通じて、この地域に対する印象も大きく変わりました。留学前は、鹿児島県が本土最南端の都道府県であるという程度の認識しかありませんでした。しかし、実際に生活する中で、鹿児島は現在の日本を形づくる上で非常に重要な役割を果たした地域であることを知りました。明治政府の中心人物である大久保利通や西郷隆盛が鹿児島の出身であり、もしこの方々がいなければ、日本という国は全く異なる姿になっていた可能性が高いと理解するようになりました。鹿児島の血を引いていることを、今では心から誇りに思っています。

この10か月間の日本での滞在は、本当に恵まれた時間でした。自分のルーツを探すという目標を達成できただけでなく、多くの友人に出会い、日本文化を深く理解し、日本各地を旅行するという夢も叶えることができました。人生の中でも、特に幸せな時間を過ごすことができたと感じており、心から感謝しております。

最後に、この素晴らしい経験を与えてくださった鹿児島県人会の皆様、そして常に応援してくれた大切な家族や友人たちに、心より感謝申し上げます。また、県庁の皆様、国際交流協会の皆様にも、日頃より温かく支えていただき、誠にありがとうございました。

日本で結ばれたご縁を一生忘れることはありません。皆様、大変お世話になりました。

○児玉 ブルノ 啓吾 さん(ブラジル出身)

初めまして、ブラジル出身の児玉ブルノ啓吾です。祖父と祖母は日本出身です。

昭和7年、自分の祖父が日本からブラジルに移住しました。祖父は鹿児島県の内之浦出身ですが、ブラジルで鹿児島県人会に参加しています。他の祖父と祖母は香川県、岡山県と福岡県の出身です。



4月に鹿児島に来てから、約10ヶ月間鹿児島大学の法文学部の地域社会コース（法経社会学科）で地域社会学を学んでいます。大学では、日本語の授業と学科の授業に参加しています。そこで日本語について多く学び、ふれることで徐々に日本語が上手になってきま

した。また、学科の授業として、ブラジルの日系社会（日本にルーツあるブラジル人）について学ぶため、「日本からのブラジルへの移民について」の研究を行いました。

ブラジルの鹿児島県人会には2017年から参加しています。鹿児島県の県費留学生制度については、毎年元県費留学生から話を聞いていました。また、毎年のブラジル日本祭りや薩摩揚げ、白熊、かしゃ餅（かしゃの葉で包んだよもぎもちで、主に奄美地域で作られている）、鶏飯、軽羹を作ります。だから、来日する前から鹿児島の伝統と文化について触れ続けていました。



ブラジル日本祭り、鹿児島県人会（2024年）

留学中は、鹿児島で自分のルーツも探しました。実際に自分の祖父の古いお家を見つけました。さらに内之浦にも行くことができました。その機会を得たことを本当に感謝しています。

また、鹿児島で伝統と文化について様々な経験をしました。おはら祭りへの参加や、西郷隆盛、薩摩藩の歴史、鹿児島弁など様々なことを学びました。また、鹿児島県の藤本副知事にお会いする機会や他の国の鹿児島県人会の人々とも出会い、鹿児島の離島である種子島と屋久島にも行きました。また、遂に長渕剛のライブにも行くことができました！（ブラジルでは、「とんぼ」と「乾杯」だけが有名です。）ライブでは、「いつかの少年」も聞くことができました。



藤本鹿児島県副知事表敬



桜島にある長渕剛の記念碑

ブラジルに戻ったあとは、鹿児島県人会の活動を再び支援し、ブラジルで鹿児島の文化や歴史を発信し続けられることを心から楽しみにしています。

今回の来日を通して、以前から感じていたことを改めて確認することができました。親族は日本で生まれ、私自身も日本の血を引いていますが、それでも私はブラジル人として育ちました。そしてそれもまた、先人たちを敬い、その想いを受け継ぐ一つの形だと思っています。

ブラジル鹿児島県人会は、私の祖先たちが大切な場所（鹿児島）を守っていくためのものであり、私はその歩みをこれからも続けていきたいと考えています。また将来、この美しい土地、鹿児島に戻ってくる機会を心から楽しみにしています。

自分にとって、鹿児島は誇りとたくさんの感謝で溢れた思い出の場所です。



ペルー鹿児島県人会のケビンと
ドミニカ鹿児島県人会のリュウキ

○川畑 ポンセ ケビン ミゲル さん(ペルー出身)

はじめまして。私はペルー出身のケビン・カワバタです。
令和7年4月から10か月間、鹿児島県で勉強しています。
父方に日本の血が流れています。祖父母は鹿児島で生まれました。祖父は指宿出身、祖母は枕崎出身です。祖父は1929年にペルーに移住しました。



私が鹿児島に来た理由は、父のルーツとつながることでした。私は、父方の祖父母とあまり話す機会がなく、日本のルーツを深く知ることができませんでした。13歳のときに父を亡くしたことは、とても大きな悲しみでした。年月が経つにつれて、兄弟や母が父の思い出やエピソードを話してくれましたが、それも少しずつ私の中で薄れてきていました。

父も以前日本を訪問しておりましたが、鹿児島を訪れることはありませんでした。父はいつも私に「行きたかったな」と漏らしていたことを覚えています。

今日、実際に自分がここ（日本）にいて、この土地を歩くことは私にとって単なる旅行とは違い、特別な意味があります。何世代も前から続く夢の実現であり、特に私の父がかつて抱いた夢を、私が実現していることに誇りを感じます。

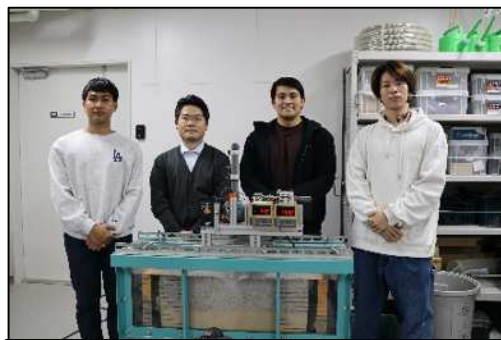
父がどのような人だったのかを思い出し、彼の人生や育った環境、そしていくつかの習慣を知ることは自分にとって大変貴重な経験になります。また、この機会を活かして、学術的・専門的な知識を深めたいとも考えました。

私は、ペルーで土木工学（地盤工学）を専門とする土木技師として働いていますが、鹿児島大学には海洋土木工学の学科があり、優れた土質試験用の実験施設があります。これは、私がより知識を深めたい専門分野と直接関係しています。

現在私が鹿児島大学で行っている研究は、特定の荷重を一定の時間間隔で加えた際の土の変形を測定することであり、試験対象の土は甲殻類の残骸を含む砂を用いた特徴的な土

です。変形の測定は、この土を形成する砂と生物起源材料をさまざまな割合で混合し、土の最適な混合比率を特定することを目指しています。

さらに、土の密度やその他の重要な物理特性を明らかにするための実験も行っています。これらの実験で得られた結果は、将来ペルーに帰国した際に追求していく研究の基礎となる重要なデータになります



鹿児島大学土壌学研究室

滞在中は、これまで会う機会がなかった日本に住む親戚とも会うことができました。枕崎に住む私の叔母たちと連絡を取り合い、祖母の妹さんとその娘さんに会うことができました。彼女たちは日本語しか話せませんでしたが、大学で毎日受けている日本語の授業のおかげで、問題なくコミュニケーションをとることができ、深い絆を築くことができました。



枕崎の家族を訪ねました

以前は知らなかった日本文化のさまざまな側面、例えば祭りや寺院、伝統的な儀式などをより深く知ることができました。ペルーではこれらの文化に対してごく基本的な理解しか持っていませんでしたが、現在ではその意味や文化的価値を理解した上で、より深い視点から知ることができています。



フットサルチームのみんなと

また、地元の人々や他の留学生と友人関係を築けたことも非常に大切な経験でした。特にスポーツを通じて、多くの人々と出会うことができました。彼らは私の友人となってくれたことに加え、日本文化を学ぶ上で大きな手助けもくれました。

鹿児島での生活は興味深い事が数多くあります。毎日目覚めて窓から桜島を眺めることは、特に感慨深い経験です。活火山が都市のすぐそばに存在していることを目の当たりにすると、自然と人間がいかに調和して共存できるかを示す明確な例だと感じます。

私の好きな活動のひとつは、自転車で街を巡ることです。自転車に乗って街を見ることで、鹿児島を身近で日常的な視点から知ることができました。鹿児島での生活を重ね、時間が経つにつれ、鹿児島は私にとって第二の故郷のような存在になりました。他の都市に旅行した後に鹿児島に戻ると、街の静けさや落ち着きに触れて、いつも心が安らぐのを感じます。

今回の鹿児島への留学は、私の人生において大きな転機となりました。様々な面で重要な変化をもたらしてくれました。日本で学んだ習慣や知識を大切にしながら、これからの生活に活かし、様々なことに挑戦し続けたいと思います。また、将来的に再び日本を訪れ、出会った友人たちとよりスムーズにコミュニケーションが取れるよう、日本語の学習も続けていきます。

学んだことは、職業生活だけでなく私生活にも活かし、自分自身をより良い人間、そして優れた専門家として成長できるように役立てていきたいです。



おはら祭りにも参加しました

最後に、毎年、日系の若者がルーツとつながる貴重な機会を提供してくださる鹿児島県および鹿児島県ペルー協会に心より感謝申し上げます。また、この旅の間に出会った友人や先生方、家族にも深く感謝いたします。皆さんから多くのことを学び、支えていただいたおかげで、この経験を実りあるものにすることができました。

どうもありがとうございました。

02 知事の動き

○韓国の李赫(りひょく)駐日大韓民国大使が訪問されました(12月10日)

韓国の李赫(りひょく)駐日大韓民国大使が県庁を表敬訪問されました。

李大使からは、日韓国交正常化60周年という記念すべき年に、良好な日韓関係が続いていることは喜ばしいことであり、今後も、地方間の交流をはじめ、経済や人的交流など、さまざまな分野の交流が活発になるように努めたいとお話がありました。

私からは、これまで、全北特別自治道の皆さまと交流を深めていることや、60周年を契機として、今後も、韓国と鹿児島の交流関係が発展していくことを期待しているとお話ししました。



李赫(り・ヒョク) 特命全権大使、大使夫人との記念撮影



▲駐日本韓国大使館と駐福岡総領事館の皆様と

○駐日アイルランド大使館のデミアン・コール大使が訪問されました (12月11日)

アイルランドのデミアン・コール駐日アイルランド大使が県庁を表敬訪問されました。

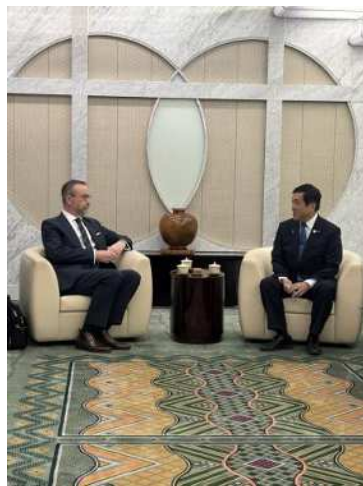
デミアン・コール大使からは、10月に行われたアイルランドハープと薩摩琵琶のコラボによるコンサートのお話や、農業や産業の面において、アイルランドと鹿児島の関係性を深めていきたいとお話がありました。

私からは、本県の豊かな自然や食・文化などの魅力をご紹介させていただきました。

今回の訪問が、本県とアイルランドとの交流のより一層の発展につながれば幸いです。



▲デミアン・コール大使との記念撮影



▲大使との歓談の様子

03 かごしまの観光情報

○「墓目の儀(ひきめのぎ)」・「百々手(ももて)式」(12月7日)

島津家別邸・仙巖園（鹿児島市）にて、古くから続く小笠原流の弓術儀式の「墓目の儀」と「百々手式」が奉納されました

墓目の儀は病魔退散を祈願した儀式あり、射ると矢先の風を切る音が響き、その音で怨霊をはらうとされています。百々手式も武家礼法に則った作法で弓を射る祈願・魔除けの神事であり、17年ぶりに奉納されました。

当日は、800年以上に渡り継承されてきた、鎌倉武士の優美な弓の技と、洗練された動きが披露されました。





▲「臺目の儀(ひきめのぎ)」・「百々手(ももて)式」 写真提供:仙巖園」

○甕島のトシドン(12月31日)

トシドンは下甕島（薩摩川内市）の集落に伝わる大晦日の伝統行事であり、シュロやソテツの葉っぱや紙などで作られた 30 センチメートルもある高い鼻、耳元まで張り裂けた口を持つ、大きな赤い顔・青い顔を持ち、全身をミノで覆った姿で現れます。

甕島のトシドンは、子どもと対話しながら、その子のよいところや優れたところほうんとほめて励まし、欠点や短所について指摘し、確認をします。そして、これからはそんなことはしないと約束をさせます。最後に、甕島のトシドンと約束したほうびとして「年餅」を授けて去っていきます。

祝福神であるトシドンからもらう「年餅」を食べると無事に年をとることができると言われていました。

国の無形民俗文化財に指定され、2009（平成 21）年 9 月 30 日には、ユネスコの無形文化遺産にも登録されました。

また、2018(平成 30)年 11 月 29 日、薩摩硫黄島のメンドン・悪石島のボゼ等の 9 行事を追加し「来訪神：仮面・仮装の神々」としてユネスコの無形文化遺産に拡張登録されました。



◀トシドンが集落の子供達と話している様子

写真引用先:鹿児島県 HP

🔥 Coming UP! 【令和8年2月、3月のイベント情報】

◇2月

16日 かぎ引き祭り（鹿屋市）

22日 焼酎ツーリズムかごしま 2026

（いちき串木野市、日置市）

◇3月

8日 鹿児島神宮 初午祭（鹿児島市）

詳細はこちら↓



是非足を運んでみてください♪



編集後記 （鹿児島県観光・文化スポーツ部 国際交流課）

新しい一年が始まりましたね。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

ところで、2026年の干支をご存じですか？

今年は午年、Year of the Horse です！

十二支の中でも、午は“成長・成功・繁栄”を象徴する、とても縁起のよい干支だそうです。

そう聞くと、なんだかワクワクしてきますね＼(^o^)/

このメルマガでも、これまで以上に「鹿児島の旬」を楽しくお届けできるよう、

読者の皆さまと一緒に、新しい発見を重ねていければと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆さまにとって、笑顔あふれる一年になりますように🌟

「かごしま南の風便り」HPでは、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー

鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。

写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。

その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております

▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▼▲

鹿児島県 観光・文化スポーツ部 国際交流課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話番号: +81-99-286-2306

FAX 番号: +81-99-286-5522

電子メールアドレス

英 語: cir1@pref.kagoshima.lg.jp

中国語: cir2@pref.kagoshima.lg.jp

韓国語: cir3@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県庁ホームページ

<http://www.pref.kagoshima.jp/>



鹿児島県観光サイト かごしまの旅

<https://www.kagoshima-kankou.com/>



※ 本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。